

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		-	-	-
(北陸)		衣料品専門店 (店舗運営)	来客数の動き	・出退店に伴う販促により客足が伸びている。
		家電量販店(店 長)	販売量の動き	・猛暑が続き、エアコンなど夏物商材が好調である。
		自動車備品販売 店(役員)	販売量の動き	・冬用タイヤの販売量は早期展開と値上げ、消費税の引上げ もあり、前年度から大きく売上を伸ばしている。ドライブレ コーダーも事故や事件の影響から360度撮影可能な高額モデ ルの問合せと購入客が前年比200%と大きく増加している。
		住関連専門店 (役員)	単価の動き	・高価格帯商品の販売量が増加している。
		スナック(経営 者)	来客数の動き	・今月は5月と同じで長い休暇があったが、最低だった5月 よりも良く、例年の8月と変わらない。ただ、お盆以降は人 通りがなく、閉店時間も全体的に早めだった気がする。駅前 の居酒屋などは満員と聞いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は猛暑の影響でタクシー利用が増えている。ふだんバ スで外出する人もバスを待つ間暑いいため、タクシーの利用 者が増えている。夜の街も涼を求めて人出があり好調であ る。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・高級時計等の購入の動きが活発とのことである。お盆は大 型連休になるも街中への入込客は少なく、お盆明けくらいから 少し戻ってきたようである。近隣の百貨店の閉店に伴い、 当地の同系列百貨店への人の流れができ、中心商店街へ回遊 することに期待している。消費税の引上げに伴う冷え込みも 考えられるが、キャッシュレスに伴うポイント還元制度に 乗り遅れないよう情報提供している。
		一般小売店[事 務用品](店 員)	お客様の様子	・消費税の引上げ直前だが駆け込み需要や商談がほとんどな く、売上に直結するような案件がない。
		百貨店(売場主 任)	販売量の動き	・絵画や時計等の高額商材が好調に推移し、前年比10%増の 見込みである。秋物衣料品も例年より早く動き出している。
		百貨店(販売促 進担当)	販売量の動き	・化粧品を中心に消費税の引上げ前の駆け込み需要の動きが 始まっている。また、呉服、宝飾、美術品などの高単価品への 関心が強くなっており、消費税の引上げ前の一時的な現象で はあるが、全体的な消費マインドは上がっている。
		スーパー(店 長)	来客数の動き	・来客数、単価共に変化はみられない。
		スーパー(総務 担当)	来客数の動き	・今年の旧盆セールは長期化するため売上増を見込んだが、 台風の影響で後半は前年売上を下回り、ほぼ前年並みにな る。また、猛暑の影響で飲料関係の売上が増加する。
		スーパー(総務 担当)	販売量の動き	・8月のお盆商戦において、ギフトやオードブル等の1品単 価はダウンしたものの、販売量については前年並みで推移し ている。やや下向き傾向はみられるが、変わらないと考 える。
		スーパー(統 括)	単価の動き	・お盆期間は好調であったが、平常時の節約志向は強く、月 間を通しては厳しい状況が続いている。
		コンビニ(店 長)	お客様の様子	・売上、単価いずれも前年を大きく下回っている。天候の影 響から前年の7月は大きな売上があり、今年が絶望的なく らい前年を下回っていたが、8月に入り顕著な前年割れは収 まっている。ただ、7月が余りにも悪過ぎただけで8月の景 気は決して良くない。8月の最終週においては前年を大きく 割っている。
		コンビニ(店舗 管理)	来客数の動き	・お盆の9連休に期待するも、大型台風の影響で当てが外れ た。来客数の減少を単価の引上げで補いたいところではある が、思うようにはいかない。
		衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・天候不順で暑かったり、寒かったりしており、客の積極 的な購買意欲を感じられない。

乗用車販売店 (経営者)	来客数の動き	・新型車の発表展示会を開催したが来客数は少なかった。暑さの影響もあると思うが、購入への足が重いようである。
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・消費税の引上げ前の駆け込み需要等が余りみられない。
その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・昔から2月と8月は暇ということになっているが、そのとおり暇である。
その他小売 [ショッピングセンター](統括)	来客数の動き	・お盆期間については日並びも良く、集客が伸びた。夏物についても売り尽くしと合わせて比較的動いた。周辺環境や商業環境も変化しているため、一概にはいえないが今月は好調な状態である。
一般レストラン (店長)	来客数の動き	・お盆過ぎまでは例年を上回る動きだったが、そのあとは例年程度になっている。
旅行代理店(所長)	販売量の動き	・ほぼ前年と同等の実績で推移している。
タクシー運転手	来客数の動き	・朝方、夕方において、県外から出張してきた営業の人の利用が少ない。
通信会社(役員)	販売量の動き	・ここ数か月継続して放送、通信共に契約獲得が好調に推移している。前年に比べても大幅に増えている。
テーマパーク (役員)	来客数の動き	・来客数の動きは、国内では団体及び個人、海外客も前年並みに推移している。
その他レジャー施設 [スポーツクラブ](総支配人)	競争相手の様子	・6月より新規客獲得のため設備投資を行い新プログラムを実施し、予定の客層を順調に確保してきたが、8月より同様のプログラムを実施する全国チェーンの大型店がオープンし、超安値のオープン販促を開始した。当社の集客に影響が出始め、今後競合店への会員の移籍も出始めると考える。
美容室(経営者)	それ以外	・来客数、売上共に前年をクリアできている。また、ヘアケア商品の売上も10%ほど伸びている。
住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・注文住宅の契約数に増加はなく厳しい状況ではあるが、請負単価は上がっている。施工業者は相変わらず少なく、段取りがつきにくい。
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・10月からの消費税の引上げにより展示会場の来客数が減少している。客の動きが鈍っていると感じる。
商店街(代表者)	お客様の様子	・夏祭りは例年にないほどの入出で、特に若者が多かったようにみえる。遠出をすることもなく、近隣で休日を過ごし、金を使わないという行動パターンが多いようである。
一般小売店[鮮魚] (役員)	販売量の動き	・お盆休みの連休も思ったほど良くなかったし、後半は台風の影響でさっぱりだった。お盆以降は静かである。
一般小売店[書籍] (従業員)	販売量の動き	・ここ最近では来客数、販売量、客単価全て悪くなっており、特に販売量の落ち込みがひどい。
百貨店(販売担当)	来客数の動き	・8月前半の急激な気温上昇の影響もあると考えるが、来客数が減少している。特に60代以上の高齢の客の来店が減少している。車で来られない客が暑さで来店を控えた可能性がある。また、暑過ぎるためイベントの中止やプールなどの入泳禁止があり、子供連れ客の水着やリゾート関連商品の購入を目的にした来店も減少している。
スーパー(店長)	単価の動き	・消費税の引上げ前の需要があるかとみていたが、まだ先である。節約志向から単価ダウンがうかがえる。
スーパー(店舗管理)	来客数の動き	・曜日の関係もあるかもしれないが、旧盆セールが前年より不振に終わった。来客数の減少もあるが、買上点数の落ち込みが激しい。
衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・消費に対しては、ますます慎重になってきている。
乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・8月の販売量は前年同月比104%の見込みである。3か月前の販売量は前年同月比136%で、下向きである。
乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・消費税の引上げ前の、駆け込み需要の動きがほとんどなく、全般的に購買意欲が低調な感じである。
高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・お盆期間の日並びが非常に良かったが、夜の集客が例年に比べ1割ほど少ない。19日は働き方改革を考慮し休館した影響もあり、今年最も苦戦する月となっている。

	一般レストラン (統括)	来客数の動き	・5月のゴールデンウィークと比べ、消費者の消費行動が抑え気味に感じる。旅行も海外ではなく国内が多くなっている。そのため、外食に掛ける費用や回数もこの夏は減ったと感じており、来客数の数字にも表れている。	
	観光型旅館(経営者)	販売量の動き	・夏休み期間、宿泊単価は前年並みだが2次消費が前年より約3割減少している。	
	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊部門は7月に続き8月も宿泊者数2けた減が続いている。レストラン部門も宿泊利用は減少し、旧盆後の売上が減少したため月累計でも前年割れである。ただし、宴会部門は低価格帯の商品企画やお届け料理は堅調に伸びている。ホテル全体では前年割れである。	
	通信会社(役員)	販売量の動き	・8月は夏休みによる営業力低下の影響があり、年間で契約獲得数の少ない月であるが、今月は前年と比べて明らかに低調に推移している。消費税の引上げを控え、家計負担の節約の可能性がある。	
	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・新商品発売の兆しがあり、買い控えの様子がみえているため、販売量が少なくなっている。	
	通信会社(店舗統括)	単価の動き	・便利なサービスに金を使うより、なるべくランニングコストを抑えようとする客が増えている。	
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・問合せ、イベント来場共に少ないこともあるが、契約件数、契約金額共に2割以上減っている。今年は暑く、異常に湿度が高かったこともあり外出を控えたと考え、それにしても少ない状況である。	
	×	商店街(代表者)	販売量の動き	・今年の8月は真夏日も多く人通りを心配したが、イベントの効果もあり人通りは多かった。反面、前年と比べると高額商品を買う人が少なく、大幅な売上減少につながっている。
	×	観光型旅館(スタッフ)	来客数の動き	・前年比で総売上は88%、宿泊人数は85%、宿泊単価は103%である。団体客を受注できず、個人客も予想に反し伸びなかった。ファミリー向け商品の展開変更の影響も受けている。
	×	住宅販売会社 (営業)	競争相手の様子	・同業者からも一様に客足の鈍化に対する懸念が強まっている。下半期の受注に対する懸念が特に強い。
企業 動向 関連 (北陸)	-	-	-	
	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量が増えてきている。	
	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・3か月前は受注が少なかったが、その後受注は順調に増え、酷暑の夏の現場では熱中症に悩みながらも、多くの仕事をこなしている。	
	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量の動き	・ここ数年チャネル別で着実に伸長してきたコンビニ向け商材が今春より頭打ちである。また、輸出の中心相手国である中国向けもこのところ低迷気味である。	
	精密機械器具製造業(役員)	取引先の様子	・国内販売先の様子は、全般的に心持ち厳しくなっている。その割合が多くなっているような感触がある。	
	通信業(営業)	受注量や販売量	・受注額が前年同月を下回っている。	
	金融業(融資担当)	取引先の様子	・猛暑ではあったが、観光関連の取引先は好調を維持している。小売業も、7月に出遅れていた夏物関連商材の販売をばん回した取引先が多かった。メーカーは、既に輸出停滞の影響を受けている取引先もあれば内需で好調な取引先もあり、会社によるばらつきが大きい。	
	司法書士	取引先の様子	・価格の安い物件が多いが、住宅用宅地の取引が多く建物新築の案件も多い。	
	税理士(所長)	取引先の様子	・3か月前は、各経営者は受注の見通しに自信がなかったが、何とか短期的な受注はできているようである。仕事は何とか現状維持ができているような感じである。	
		繊維工業(経営者)	取引先の様子	・取引先の状況によると考える。取引先で用途が良いもの、あるいは非常に企画のあるもの、そうした取引先によって違いが出てくると思う。衣料関係は、とにかく目先が厳しいということで、9月は何とかしのいでいるが、10月から先はまだまだ見通しが立っていない。

	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況は、分野によっては米中貿易摩擦の影響を受け、減少に転じているものもある。また、原材料費や物流費の高騰も景気の減速に影響を及ぼしつつある。
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・米中貿易摩擦の影響や先行きへの不安があり、設備投資が慎重になっている。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・6月末時点の四半期、半期決算が出そうなか、前期比で減収減益傾向の会社が多く、増加運転資金の需要は少ない。また、2020年以降の受注状況も前期比で単価、数量共にマイナスである。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月は、個人客からの問合せが全くなかったという話が多い。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・開発系の求人数が微増傾向にある。
	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	・依然として、人材確保ができない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・求人広告の内容をみると、正社員の求人が減少傾向にある。求人広告件数も減少しており、費用を縮小しているようである。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は1.99倍と、前年同月比で0.06ポイント減少したものの、新規求人数は4651人と前年同月より9.2%増加している。特にパート求人で15.8%と大きく伸びているのが7月の特徴である。主要産業では、建設業、情報通信業、運輸業、卸売業、小売業、生活関連サービス業、娯楽業、医療福祉業、サービス業で新規求人数が伸びている。製造業では前年同月比21.6%の減少というところが、気になるところである。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人を出し続けている業種である介護や建設などの求人には登録者がほとんどいないため、対応しきれていない状況である。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と比べ、掲載件数が少し落ちている。
	x	-	-